

第1年次 組 芸術科(書道) 学習指導案									
平成 年 月 日 ( ) 第 校時 教室 書道教室 指導者 中島 沙紀									
単元名	楷書の古典に学ぼう								
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 楷書の古典を鑑賞し、その美とその技法に関心を持ち、表現技法を身に付けようとする。 (書への関心・意欲・態度)</li> <li>○ 漢字の書の構築的な構造や変化と統一などを理解し、字形の構成や全体の構成を工夫できる。 (書表現の構想と工夫)</li> <li>○ 漢字の基本的な点画や線質の表し方と用筆・運筆を理解し、創造的な表現を身に付け表すことができる。 (創造的な書表現の技能)</li> <li>○ 鑑賞と表現は相互に関連していることを理解し、書のよさや美しさを感じ取っている。 (鑑賞の能力)</li> </ul>								
単元の 評価規準	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">書への関心・意欲・態度</td> <td style="width: 25%;">書表現の構想と工夫</td> <td style="width: 25%;">創造的な書表現の技能</td> <td style="width: 25%;">鑑賞の能力</td> </tr> <tr> <td>楷書の古典を鑑賞し、その美とその技法に関心を持ち、基本的な点画や結構・線質の表現技法を身に付けようとしている。</td> <td>楷書の構築的な構造や変化と統一などを理解し、字形の構成や全体の構成を工夫しながら作品を完成させている。</td> <td>楷書の基本的な点画や線質の表し方と用筆・運筆を理解し、創造的な表現を身に付け表している。</td> <td>臨書する古典や相手の書のよさや美しさを感じ取っている。</td> </tr> </table>	書への関心・意欲・態度	書表現の構想と工夫	創造的な書表現の技能	鑑賞の能力	楷書の古典を鑑賞し、その美とその技法に関心を持ち、基本的な点画や結構・線質の表現技法を身に付けようとしている。	楷書の構築的な構造や変化と統一などを理解し、字形の構成や全体の構成を工夫しながら作品を完成させている。	楷書の基本的な点画や線質の表し方と用筆・運筆を理解し、創造的な表現を身に付け表している。	臨書する古典や相手の書のよさや美しさを感じ取っている。
書への関心・意欲・態度	書表現の構想と工夫	創造的な書表現の技能	鑑賞の能力						
楷書の古典を鑑賞し、その美とその技法に関心を持ち、基本的な点画や結構・線質の表現技法を身に付けようとしている。	楷書の構築的な構造や変化と統一などを理解し、字形の構成や全体の構成を工夫しながら作品を完成させている。	楷書の基本的な点画や線質の表し方と用筆・運筆を理解し、創造的な表現を身に付け表している。	臨書する古典や相手の書のよさや美しさを感じ取っている。						
題材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・顔氏家廟碑(『書 I』教育図書)</li> <li>・ワークシート</li> </ul>								
単元について	<p>(1) 生徒観：基本的な用具・用材に関する知識や楷書の基本用筆はできているが、個人差が大きく、書への興味・関心も生徒によるところが大きい。自ら課題を見付けて作品を仕上げることで意欲的に臨書に取り組み、互いの作品をより具体的に鑑賞・批評する時間を設定することで、主体的に今後の創作活動に生かせるようにする。</p> <p>(2) 教材観：「顔氏家廟碑」は一画一画が入念で、重厚な表現を身に付けることができる。さらに、これまで扱った古典では、温雅な表現、厳正な表現、軽快な表現を学んだため、表現の幅を広げることができる。</p> <p>(3) 指導観：一人一人の書写能力・表現技能を高めるために個別指導を重視し、個人の能力に応じて範書や添削・助言をする。また、臨書活動の机間指導の際、範書や添削・助言と同時に生徒に具体的な発問をすることで鑑賞や自己評価の観点を周知する。</p>								
指導計画 (学習計画)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">主な学習活動</th> <th style="width: 50%;">主な評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 顔氏家廟碑に関する基本的な知識と筆法を理解し、身に付ける。</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・古典を鑑賞し、その書のよさや美しさを感じながらその美と技法に関心を持ち、基本的な点画や結構・線質などの表現を身に付けようとしている。 (書への関心・意欲・態度)</li> <li>(鑑賞の能力)</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>2 顔氏家廟碑の特徴を理解し、筆法を生かしながら字形の構成を工夫して臨書する。</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楷書の構築的な構成を理解し、字形の構成を工夫している。 (書表現の構想と工夫)</li> <li>・基本点画や線質の表し方、用筆・運筆を身に付け、表現している。 (創造的な書表現の技能)</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>3 作品を仕上げ、前後左右の生徒同士で作品を交換し互いに鑑賞・批評をする。</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・落款の入れ方を工夫し、全体の構成を工夫している。 (書表現の構想と工夫)</li> <li>・自分の作品や他の生徒の作品を鑑賞し、よさや美しさを感じ取っている。 (鑑賞の能力)</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>	主な学習活動	主な評価	1 顔氏家廟碑に関する基本的な知識と筆法を理解し、身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古典を鑑賞し、その書のよさや美しさを感じながらその美と技法に関心を持ち、基本的な点画や結構・線質などの表現を身に付けようとしている。 (書への関心・意欲・態度)</li> <li>(鑑賞の能力)</li> </ul>	2 顔氏家廟碑の特徴を理解し、筆法を生かしながら字形の構成を工夫して臨書する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楷書の構築的な構成を理解し、字形の構成を工夫している。 (書表現の構想と工夫)</li> <li>・基本点画や線質の表し方、用筆・運筆を身に付け、表現している。 (創造的な書表現の技能)</li> </ul>	3 作品を仕上げ、前後左右の生徒同士で作品を交換し互いに鑑賞・批評をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・落款の入れ方を工夫し、全体の構成を工夫している。 (書表現の構想と工夫)</li> <li>・自分の作品や他の生徒の作品を鑑賞し、よさや美しさを感じ取っている。 (鑑賞の能力)</li> </ul>
主な学習活動	主な評価								
1 顔氏家廟碑に関する基本的な知識と筆法を理解し、身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古典を鑑賞し、その書のよさや美しさを感じながらその美と技法に関心を持ち、基本的な点画や結構・線質などの表現を身に付けようとしている。 (書への関心・意欲・態度)</li> <li>(鑑賞の能力)</li> </ul>								
2 顔氏家廟碑の特徴を理解し、筆法を生かしながら字形の構成を工夫して臨書する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楷書の構築的な構成を理解し、字形の構成を工夫している。 (書表現の構想と工夫)</li> <li>・基本点画や線質の表し方、用筆・運筆を身に付け、表現している。 (創造的な書表現の技能)</li> </ul>								
3 作品を仕上げ、前後左右の生徒同士で作品を交換し互いに鑑賞・批評をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・落款の入れ方を工夫し、全体の構成を工夫している。 (書表現の構想と工夫)</li> <li>・自分の作品や他の生徒の作品を鑑賞し、よさや美しさを感じ取っている。 (鑑賞の能力)</li> </ul>								

本 時 案 (第 3 時)		
本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 作品の積文と落款とのバランスを考え、全体の構成を工夫した作品を完成させることができる。 (書表現の構想と工夫)</li> <li>○ 他の生徒の作品を鑑賞し作品のよさや美しさを感じ取り、自分の言葉で表現する。 (鑑賞の能力)</li> </ul>	
学習活動	指導上の配慮事項など	評価・方法など
1 前時までの学習を振り返り本時の課題を見付ける。	○前時に提出された作品は、添削をしてコメントを付けて生徒に返却し、古典の特徴を再確認した上で自分の本時の課題を見付けるよう指示する。	
顔氏家廟碑の特徴をとらえて臨書をし、作品を鑑賞し批評し合う。		
2 臨書作品を仕上げる。 (1)本時開始時に自分で設定した課題や前時までに学習した用筆・運筆を意識し、表現する。 (2)字形と全体の構成を工夫する。	○机間指導を行う。 前時までに学習した用筆・運筆を生かすことができているか、字形や紙面全体での構成は工夫されているかを確認し、範書や助言など個に応じて対応する。	○前時までの学習で身に付けた、用法・運筆などの技術が作品に表現している。 (創造的な書表現の技能) ○字形や、積文と落款のバランスなどの作品としての全体の構成を考えながら表現している。 (書表現の構想と工夫) —努力を要する生徒への手立て— 用筆・運筆が習得できていない生徒は個別に対応し、改めて範書を示して一緒に確認したり、助言したりする。
3 仕上げた作品を基にワークシートを記入する。	○生徒がワークシートに臨書後の感想を記入する際に感想を書く際のポイントを説明し、鑑賞の観点を意識させる。	
4 前後左右の生徒同士で互いに作品を交換し鑑賞し合う。 (1)鑑賞してもらう生徒は、本時の最初に設定した目標と臨書後の感想を伝える。 (2)鑑賞する生徒は、相手の発表と鑑賞の観点を交えながらよさを見つけ、自分の言葉で相手に伝える。	○互いに鑑賞する際の観点を明確にするため、開始前に全体に指示する。	○他の生徒の作品を鑑賞してそのよさや美しさを感じ取り、自分の言葉で相手に伝えている。 (鑑賞の能力) —努力を要する生徒への手立て— 鑑賞会が円滑に進んでいない生徒には、鑑賞の観点を一緒に再確認する。 話しにくいようであればワークシートを交換して批評を書き合う。
※次頁に詳細を記載する。		

○学習活動における評価規準と学習状況、改善状況について

【作品・観察による評価】

学習活動	指導上の配慮事項など	評価・方法など
<p>2 臨書作品を仕上げる。</p> <p>(1) 本時開始時に自分で設定した課題や前時までに学習した用筆・運筆を意識し、表現する。</p> <p>(2) 字形と全体の構成を工夫する。</p>	<p>○机間指導を行う。</p> <p>前時までに学習した用筆・運筆を生かすことができているか、字形や紙面全体での構成は工夫されているかを確認し、範書や助言など個に応じて対応する。</p>	<p>○前時までの学習で身に付けた、用法・運筆などの技術が、作品に表現している。 (創造的な書表現の技能)</p> <p>○字形や、釈文と落款のバランスなどの作品としての全体の構成を考えながら表現している。 (書表現の構想と工夫)</p>

ここでは前時までに学習した表現技法が作品に表現されているかを、生徒の作品と観察により評価する。すべての生徒を「おおむね満足できると判断される」状況（B）にするため、授業中の机間指導により「おおむね満足できると判断される」状況（B）に至らない生徒に対し、その場で指導を行う。

「努力を要すると判断される」状況（C）と評価される生徒への指導の手立ては、個別に用法・用筆など範書を示して一緒に確認したり、助言をしたりする。指導後は生徒に実践させ、成果が出ているかを確認する。

また、「十分満足できると判断される」状況（A）と評価される具体例は、この古典の筆法の特徴である顔法・向勢を作品に表現できている場合などである。

【ワークシート・観察による評価】

学習活動	指導上の配慮事項など	評価・方法など
<p>4 前後左右の生徒同士で互いに作品を交換し鑑賞し合う。</p> <p>(1) 鑑賞してもらう生徒は、本時の最初に設定した目標と臨書後の感想を伝える。</p> <p>(2) 鑑賞する生徒は、相手の発表と鑑賞の観点を交えながらよさを見つけ、自分の言葉で相手に伝える。</p>	<p>○互いに鑑賞する際の観点を明確にするため、開始前に全体に指示する。</p>	<p>○他の生徒の作品を鑑賞してそのよさや美しさを感じ取り、自分の言葉で相手に伝えている。 (鑑賞の能力)</p>

生徒同士の話し合いの観察や、ワークシートによる記載内容を評価する。

ここでも、すべての生徒を「おおむね満足できると判断される」状況（B）にするため、授業中の机間指導により「おおむね満足できると判断される」状況（B）に至らない生徒を見つけ出し、その場で指導を行う。

努力を要すると判断される」状況（C）と評価される生徒への指導の手立ては、全体に提示した鑑賞の観点を再度一緒に確認し、発問して発言を促す。また、生徒同士の会話が難しいようであれば、ワークシートを交換させ、相互批評を記入し合う。

また、「十分満足できると判断される」状況（A）と評価される具体例は、この古典の筆法の特徴が表現されているか、作品の全体構成など事前に指示した鑑賞の観点を基に根拠を具体的かつ明確にして相手の作品のよさや美しさを見つけ、自分の言葉で表現できている場合などが考えられる。

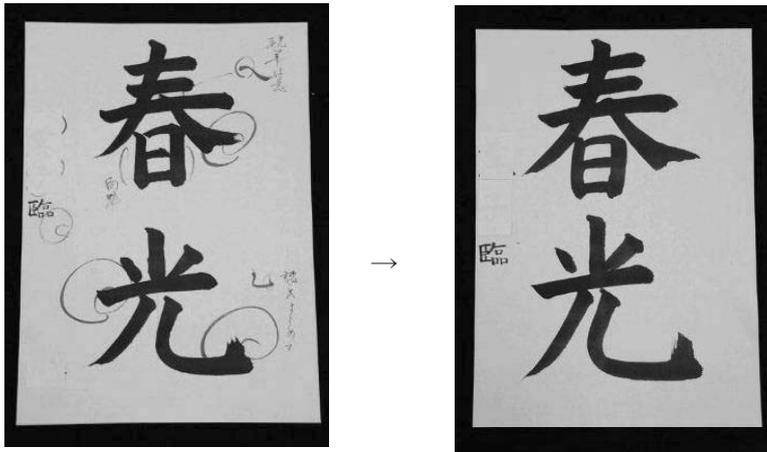
また、生徒が授業中に仕上げた作品は毎時間提出をし、添削をしてから次時の始めに返却している。これにより生徒は自分の目標を立てやすく、教員は机間指導や範書を効率的に行うことができるようにしている。

これらの指導により、生徒の作品やワークシート等には変容が見られた。具体的な実例はこの後写真で添付する。教員のきめ細やかなはたらきかけにより、生徒の学習過程に変化が著しく見られた一例であろう。

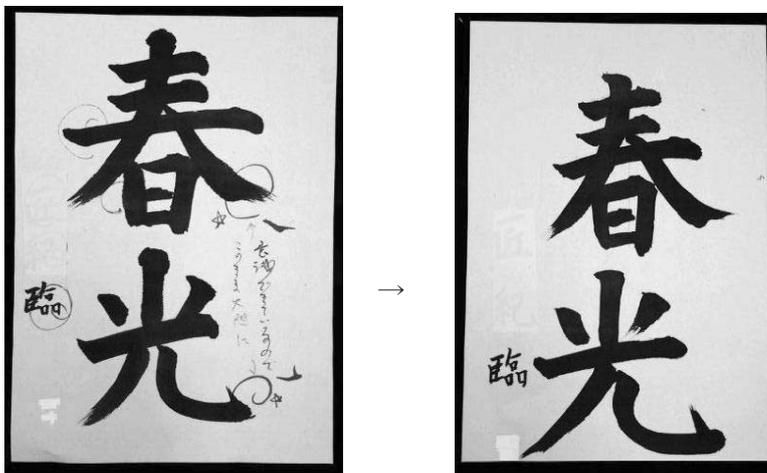
【実例 ー指導前後の生徒の作品，ワークシートの変化ー】

①作品の変化

- ・ 向勢の変化



- ・ 顔法(蚕頭燕尾)の変化



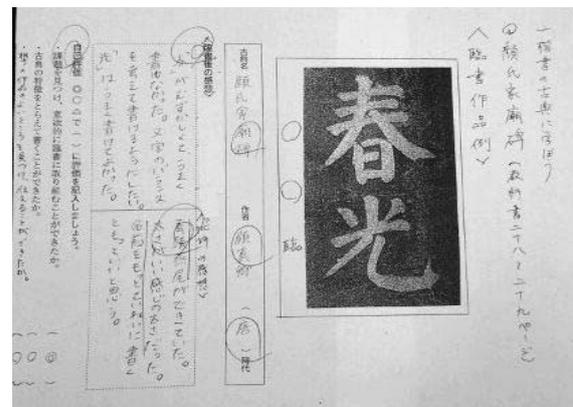
②使用プリントの一例

- ・ 顔法の学習



→これまでに学習した古典の右払いとの比較を載せた。  
光村図書の教科書を参考にプリントを作成した。

- ・ 批評記入，自己評価記入のワークシート



→臨書後の感想を記述することで本時の自身の書活動を振り返り，批評の感想を記述することで鑑賞の能力を養う。  
記述にすることで言語活動の充実を図る。  
最後に自己評価を記入し，反省を次時に生かす。